第７回 市民会館名画劇場

開催日：平成19年（2007年）9月25日(火)・26日(水)

今回は、純情と獰猛さが入り混じった青春の一瞬を、気鋭の監督たちが鮮やかに収めた青春映画の秀作を上映しました。

＜上映作品一覧＞

『キューポラのある街』1962年／日活／99分
監督：浦山桐郎　原作：早船ちよ
出演：吉永小百合、浜田光夫、東野英治郎

『けんかえれじい』1966年／日活／86分
監督：鈴木清順　原作：鈴木隆
出演：高橋英樹、浅野順子、津川祐介

『八月の濡れた砂』1971年／日活／91分
監督：藤田敏八
出演：村野武範、広瀬昌助、中沢治夫

『伊豆の踊子』1974年／東宝映画＝ホリプロ／82分
監督：西河克己　原作：川端康成
出演：山口百恵、三浦友和、中山仁

第7回市民会館名画劇場

平成19年度優秀映画鑑賞推進事業

第1回下関市芸術文化祭協賛

キューポラのある街 1962年 日活

原作:早船ちよ
脚本:今村昌平
脚本・監督:浦山桐郎

【出演者】
吉永小百合
浜田光夫
東野英治郎
杉山徳子
市川好郎 ほか

石原裕次郎や小林旭などのスターを配したアクション映画が全盛だった日活に、もう一つの流れとして生まれたのがリアリズムを基調とした青春映画である。その路線を象徴するコンビが吉永小百合と浜田光夫で、この映画の他にも『愛と死をみつめて』(1964)などで主演している。この作品は、鋳物工場が立ち並ぶ埼玉県川口市を舞台に、解雇された鋳物職人の父親を心配しながら、健気に生きようとする娘と若い工員を描いた早船ちよ原作の映画化。保守的な父親を演じる東野英治郎の好演もさることながら、娘を演じた吉永小百合はこの映画でブルーリボン賞を受賞し、本格的に女優への道を歩み出した。今村昌平監督門下の新人浦山桐郎の第1回監督作品で、今村が脚本を共同執筆した。『大人は判ってくれない』(1959)などで知られるフランスのフランソワ・トリュフォー監督もこの映画のみずみずしい感覚を見抜き、激賞したという。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

(白黒 シネマスコープ 99分)

けんかえれじい 1966年 日活

原作:鈴木隆
脚本:新藤兼人
監督:鈴木清順
企画:大塚和

【出演者】
高橋英樹
浅野順子
川津祐介
松尾嘉代
片岡光雄 ほか

昭和初期、岡山から会津若松に移り住んだ暴れ者の硬派学生が、喧嘩に明け暮れながらも成長してゆく様を活写したおおらかな青春映画。若き高橋英樹が主人公を熱演しているが、爽快なアクションや乾いたユーモアの中に、ふと恋愛感情を覚えた主人公を通して豊かな叙情性が表現されている。山本直純による硬軟のメリハリが効いた音楽も、主人公の揺れ動く心理を的確に表していると言えるだろう。近年、白い髭の老人役で映画やテレビへの出演も多い鈴木清順監督は、もともと日活撮影所に属し、低予算、短い撮影期間による娯楽作品の量産体制、いわゆる「プログラム・ピクチャー」の中で独特のシャープな作風を完成させていった監督である。ラストシーン近くに、やがて2・26事件で処刑される国家主義者北一輝が登場し、戦争に突き進む日本の姿を暗示しているが、原作にはなかったこの設定は鈴木監督が発案したものだという。

(白黒 シネマスコープ 86分)

八月の濡れた砂 1971年 日活

脚本:峰尾基三
〃 :大和屋竺
脚本・監督:藤田敏八
企画:大塚和

【出演者】
村野武範
広瀬昌助
中沢治夫
隅田和世
テレサ野田 ほか

揺れ動く若者の行動と心理を硬質なタッチで瑞々しく描いた青春映画の名作であり、藤田敏八監督の初期の代表作である。主人公たちの〈大人〉に対する不信と反抗の姿勢は、この種の映画に特有なものであると同時に、学生運動などで大きく揺れ動いた1960年代後半の時代の気分を色濃く宿したものと言えるだろう。ただその描写が反抗礼讃、青春万歳の紋切り型ではなく、優しさと残酷さの入り混じった、青春という名の一季節を、静かに見つめている点にこの監督の特徴がある。1950年代の『太陽の季節』とはまた別の、湘南の眩しく気怠い夏がスクリーンに溢れている。製作会社の日活はこの年をもって一般劇映画の製作を中止し、ロマンポルノへと移行したが、本作は青春映画を看板としてきた同社の光芒を放つ一本として「キネマ旬報」ベストテン第10位に選ばれた。

(カラー シネマスコープ 91分)

伊豆の踊子 1974年 東宝映画=ホリプロ

原作:川端康成
脚本:若杉光夫
監督:西河克己
制作:堀威夫
〃 :笹井英男

【出演者】
山口百恵
三浦友和
中山仁
佐藤友美
一の宮敦子 ほか

青春小説の名作として知られる川端康成の同名作の映画化。田中絹代と大日方伝が主演した、五所平之助監督の松竹作品(1933)を第1回として、これまでに全部で6回映画化されている。踊り子を演じたのは、美空ひばり、鰐淵晴子、吉永小百合、内藤洋子らで、いずれもその時代の青春スターであった。本作の特徴は、五所作品と同じく、旅芸人たちの社会的な位置を明確にしている点にある。その視点はラストの印象的なストップモーションからも見てとることができるだろう。西河克己監督にとっては、1963年の吉永小百合主演作品に次いで2度目の映画化であった。山口百恵は1970年代のアイドル歌手で、絶大な人気を誇っていた。相手役となる一高生役は公募され、まだ無名だった三浦友和が抜擢された。この後二人は「百恵=友和」のゴールデンコンビとして12本の作品で共演し数々のヒット作を放ち、1970年代青春映画に大きな足跡を残すが、1980年に結婚。山口百恵は芸能界を引退した。

(カラー シネマスコープ 82分)

9月25日(火)・26日(水)
下関市民会館大ホール

■上映スケジュール

25日 13:30「キューポラのある街」
15:25「けんかえれじい」
17:10「八月の濡れた砂」
19:00「伊豆の踊子」

26日 10:00「伊豆の踊子」
11:40「八月の濡れた砂」
13:30「けんかえれじい」
15:15「キューポラのある街」

■入場料 1日券500円(全席自由、税込、前売・当日同額、6歳以上有料)

■プレイガイド (7月28日(土)発売開始)

下関市民会館、シーモール「ラン」、快音堂楽器店、下関十字堂楽器店、はまゆう(ジャスコ安岡店内)、でせえる三好(長府)、池辺ドライクリーニング店(彦島支所前)、菊川ふれあい会館(アブニール)、サンパーク小野田、宇部井筒屋、小倉井筒屋、北九州芸術劇場インフォメーション

■託児サービス

未就学のお子様は、入場をご遠慮いただいております。お子様を無料でお預かりするサービスを行います。安心して上映会をお楽しみください。
〔ご希望の方は、9月19日(水)までに下関市民会館へお申し込みください。〕

■主催 財団法人下関市文化振興財団、文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター
■後援 下関市、下関市教育委員会、下関市文化協会、朝日新聞社、毎日新聞下関支局、読売新聞下関支局、山口新聞社、NHK下関支局、KRY山口放送、tys テレビ山口、yab 山口朝日放送、COME ON! FM
■協力 コミュニティシネマ支援センター

お問い合わせ・お申し込み先 下関市民会館 TEL.0832-31-6401
FAX.0832-35-0800 http://www.scpf.jp e-mail info@scpf.jp